
2017年3月期 業績見通し

2017年3月期 通期業績見通し

(単位：百万円)

勘定科目	2016年3月期 実績	2017年3月期 予想	前年比
売上高	2,620	3,200	122.1%
営業利益	538	640	118.9%
経常利益	539	640	118.5%
純利益	289	434	150.0%

- 2017年3月期の業績は、創業来17期連続となる過去最高売上高、6期連続増益を目指します。既存サービスの安定した成長による、売上32億（前年比売上高122%）、利益6.4億（ROE20%）は達成可能な見通しです。
- 第4次産業革命に向け、OPTiM Cloud IoT OSで国内デファクトスタンダード獲得し第4次産業革命をリードする企業を目指します。そのためにIoT/AI/Robot分野に集中投資を行い、基盤を整える1年としてまいります。
- 売上、利益ともに新規サービスの受注により拡大の可能性を残しております。なお、計画値と乖離が生じた場合には、速やかに開示します。
- ただし、第4次産業革命に向けた事業展開を行う中、更なる事業機会を発見した場合には、計画値にとらわれず大型な投資も行い、速やかに開示します。

2016年度 成長戦略

成長戦略3つの柱

1. 既存サービスも順調に市場が拡大しています。この機に安定的な収益をしっかりと伸ばしていきます。
2. IoT/AI/Robot分野への投資を強化し、第4次産業革命の中心となる企業となります。また、あらゆる産業と当社の持つIoT/AI/Robotテクノロジー・ノウハウを融合させる「〇〇×IT」により、ITの力で新しい産業基盤を創造してまいります。
3. 合併会社設立による営業力強化による販売拡大、新サービスの創造を推進してまいります。

既存事業の拡大と新事業の展開 (MDM・Remote・タブホなど)

2015年度 取り組みサマリ

IoTの爆発的な普及を見据え、デバイスマネジメントやセキュリティ分野をしっかりと拡張させつつ（MDM・Store・教育）、爆発的な成長分野（IoT・AI・ドローン）に対する布石を打った1年となった

AI（人工知能） ビッグデータ

研究開発によるAI（Artificial intelligence）の知見を活かし、AIコンサルティングサービスの提供を開始

セキュリティ

4G LTE ケータイ向けセキュリティプラットフォームをKDDIと共同開発・提供開始

IoTプラットフォーム

ビッグデータ

IoT時代に最適化された新型OS「OPTiM Cloud IoT OS」を発表

IoT/ウェアラブル

世界初、Wearable Device Management サービスを発表。Apple Watchにも対応。

デバイスマネジメント

「Device Enrollment Program」対応においてKDDIと共同開発・提供開始

IoT/ドローン

ビッグデータ

世界初、ドローン対応ビッグデータ解析プラットフォーム「Sky Sight」の提供開始

ビジネスアプリ

生体認証を用いたセキュア・マーケットプレイス「OPTiM Store」を発表

教育ICT

佐賀県全高校生の学習用タブレットにOptimal Bizを導入

教育ICT

世界初、Windows RT向けペアレンタルコントロールをマイクロソフトの協力により提供開始

教育ICT

ビッグデータ

「京都ICT教育モデル構築実証研究プロジェクト」に参画、教育ビッグデータ活用を推進

IoT/ウェアラブル

世界初、遠隔作業支援専用スマートグラス「Remote Action」の提供開始

※世界初はいづれも発表時点、自社調べ。

2014年度

2015年度

現在

合併会社戦略

合併会社戦略①

2つの合併会社戦略を用い、「〇〇XIT」のさらなる深化と新しい販売チャネルを獲得します。

- ①産業パートナー戦略

- 〇〇XITの「〇〇」部分には産業特有のニーズがあり、その知見を最小限のリスクと投資で取得するために合併化
- 当社のITの力で各産業世界初のソリューション開発を目指します。

膨大な産業の知見を獲得し、産業特有のニーズをサービス化

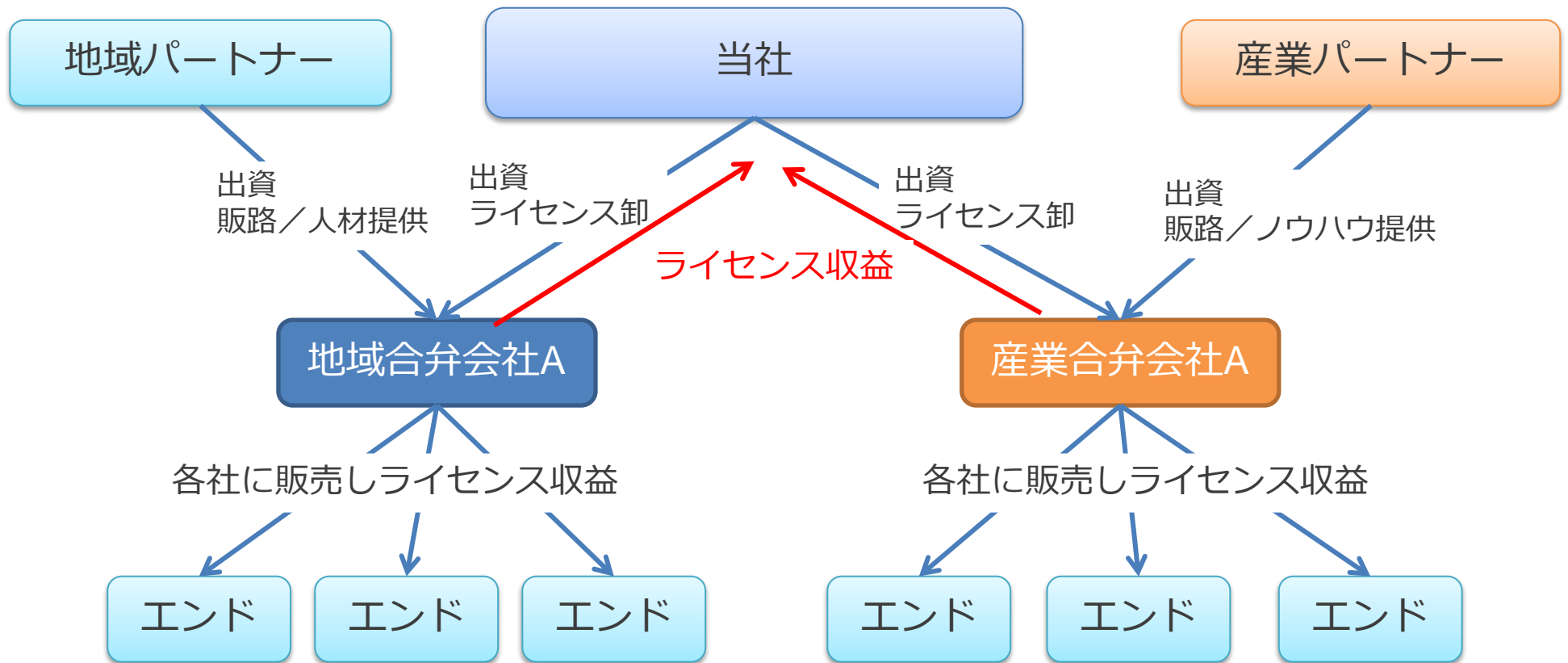
- ②地域パートナー戦略

- 地方に特化した商圈および人脈を持つ極めて有力な「地方の雄」となる企業が対象。
- その地方に特化した販売チャネルを獲得します。

少ない人的投資で地の利を活かした多くの営業パワーを獲得

合併会社戦略②

地域パートナー、産業パートナーとの合併会社を通じて、当社のライセンス（サービス/技術）を提供していきます。販売の拡大、新たなサービスの提供を行います。

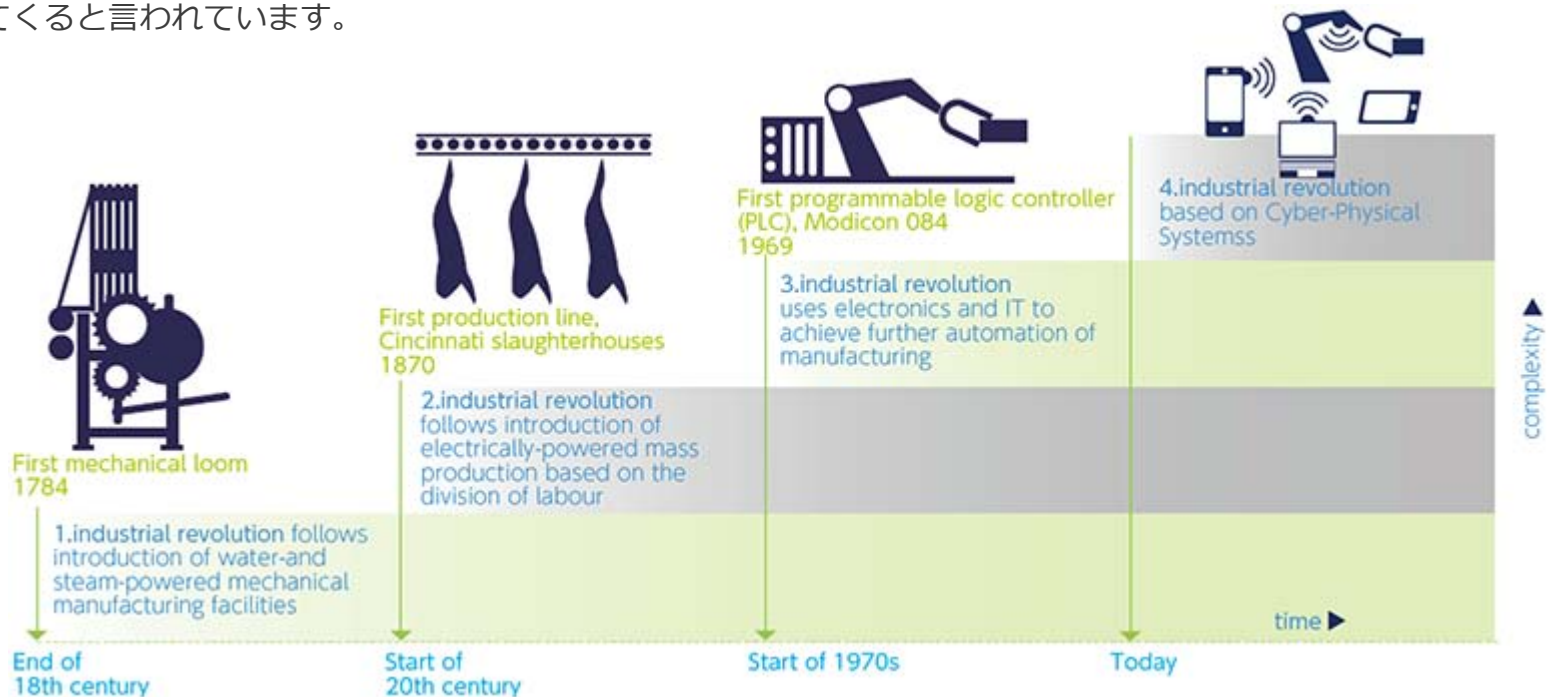


第4次産業革命に向けて

市場環境：第4次産業革命とは？

18世紀半ばから起こった「第1次産業革命」は、工場制機械工業により産業・社会を変えました。19世紀には、石油と電力の活用による「第2次産業革命」に至り、大量生産・大量輸送の幕明けとなりました。そして現代においては、ITの発展と生産の自動化などで産業構造が変化する「第3次産業革命」期と定義されています。

では、「第4次産業革命」とは？ その革命によってたらされるのは、IoT（モノのインターネット）により、すべてのモノがインターネットでつながる世界。たとえば、工場内外のモノがネットワークでつながり、人工知能（AI）が生産を最適化させたり、需要と供給のバランスを加味して、効率的な生産・販売ルートを実行したりする世界。そんな時代が、2025年以降にはやってくると言われています。



(出典) Forschungsunion Wirtschaft und Wissenschaft, Acatech, "Securing the future of German manufacturing industry Recommendations for implementing the strategic initiative INDUSTRIE 4.0 Final report of the Industrie 4.0. Working Group"

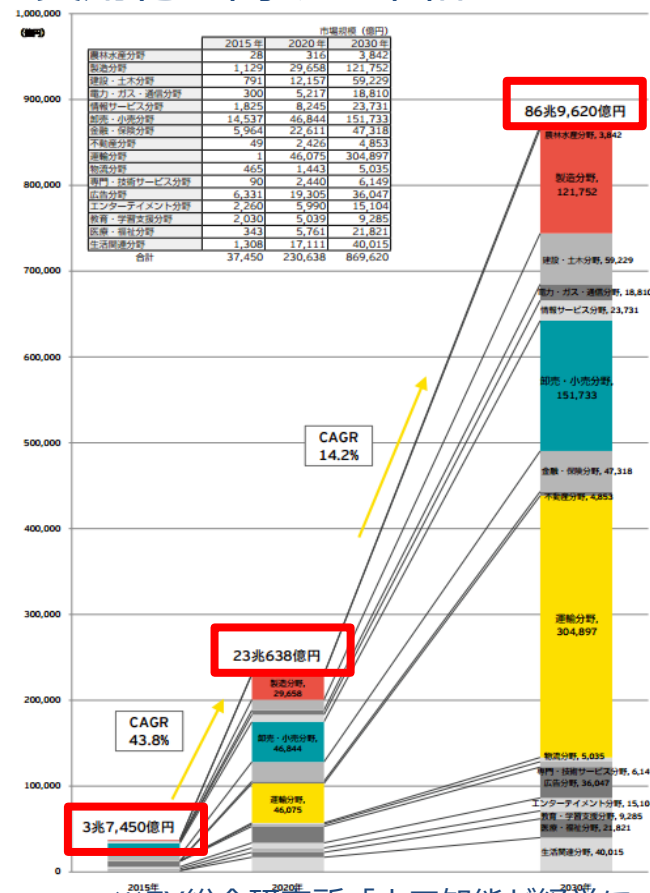
市場環境：AIの市場規模

AI（人工知能）の関連市場は、2015年には3.7兆、2020年には23.6兆、2030年には86.9兆にも及ぶとの調査結果もあり、実用化に向けた本格活用が進みつつあります。

第3次AIブームとも呼ばれる今回のブームでは、マシナラーニング（機械学習）やディープラーニング（深層学習）による「特徴量表現」が可能となることで、今までに技術的な解決・応用が難しかったAI分野で大きな技術的ブレークスルーをおこすことが期待されています。

当社では既に画像解析AIの研究開発に着手しており、あらゆる産業と融合する「〇〇×IT」によりITの力で業界・産業基盤を再構築することに取り組んでいます。

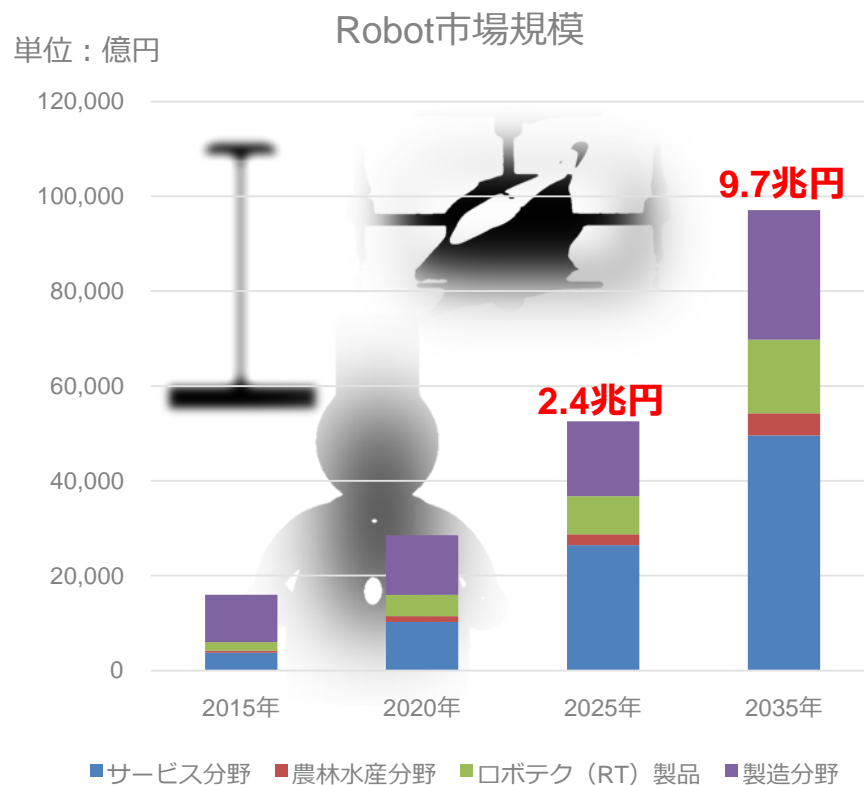
=> 2016年度は画像解析を含むAI分野に注力を行い、技術的なブレークスルーを起こし、新たなビジネス価値の創造を行います。



※EY総合研究所「人工知能が経営にもたらす「創造」と「破壊」」より

市場環境： Robot分野の市場規模

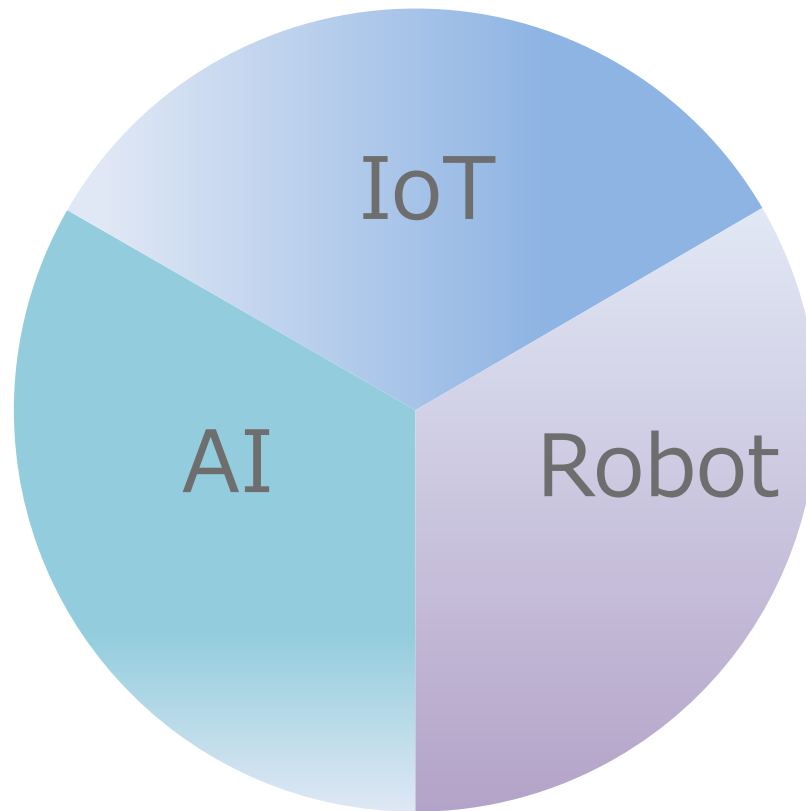
経済産業省の資料によると、Robot分野の市場規模は、2035年には9.7兆に達するとしています。また、政府「ロボット新戦略」（2015年1月23日）では、ロボットの市場規模を現在の6,000億円から2020年には2兆4,000億円へと成長させることを目標としています。内訳をみると、製造業で1兆2,000億円、非製造業で1兆2,000億円とすることとしています。



出典) 経済産業省「ロボット産業市場動向調査結果」を参考に当社にて作成

第4次産業革命を牽引する3つの事業・技術

第4次産業革命はIoT・AI・Robotが牽引し大きく産業構造を変えると
当社は考えています



Cloud IoT OSご紹介

事業内容について

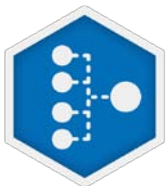
～ Cloud IoT OSを発表 ～



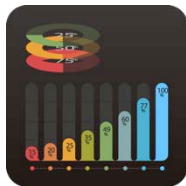
OPTiM CLOUD IoT OS

IoTサービスを作る時代から使う時代へ

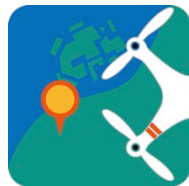
Cloud IoT OSは、あらゆる人に直感的なユーザ体験
“IoT端末の制御・データ解析・AI・クラウドサービスとの連携”
を提供するプラットフォームです



IoT Explorer
デバイス管理



Insight
データ分析



SkySight
地理的情報マッピング



Cloud Vision
カメラ映像解析



Store
IoTサービス専門ストア



Code
統合開発環境

Cloud IoT OS Movie

<https://www.optim.co.jp/cloud-iot-os/>

IoTソリューション概要 ①

鉄道ソリューション

- ・無人駅監視
- ・空席案内
- ・踏切アラート
- ・交通量統計

無人駅監視



遠隔作業支援

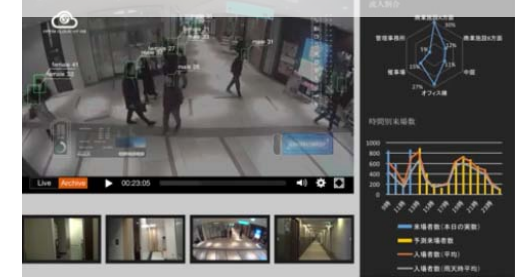
店舗管理ソリューション

- ・防犯
- ・顧客属性管理、導線解析 (AIを使った店舗マーケティング)
- ・接客モニタリング

防犯



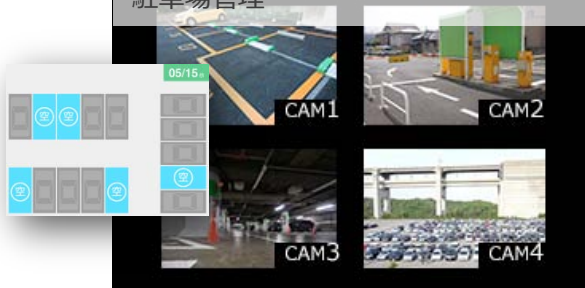
顧客属性管理



駐車場ソリューション

- ・空駐車場管理
- ・レンタカー位置情報
- ・ドライブコンシエージュ

駐車場管理



GPS

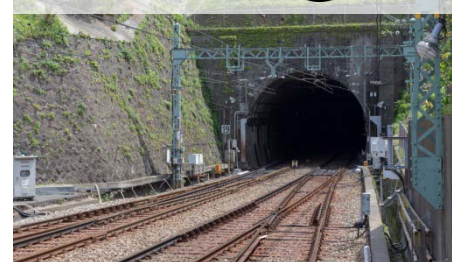


レンタカー位置情報管理

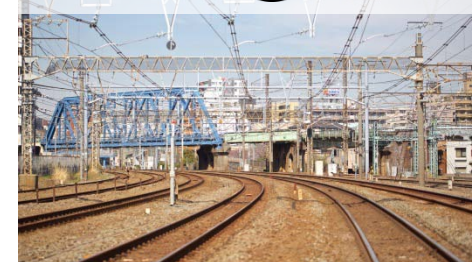
公共・インフラソリューション

- ・トンネル異常予知
- ・設備遠隔監視

トンネル異常検知



設備遠隔監視



IoTソリューション概要 ②

建設・土木ソリューション

- ・ 構造物検査
- ・ 土木3Dモデリング
- ・ 建物老朽化モニタリング
- ・ 遠隔作業支援・作業ログ蓄積

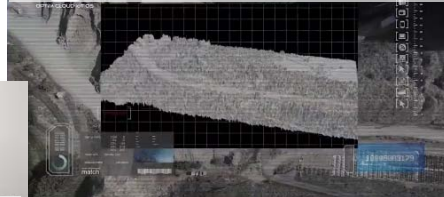
構造物検査



遠隔作業支援



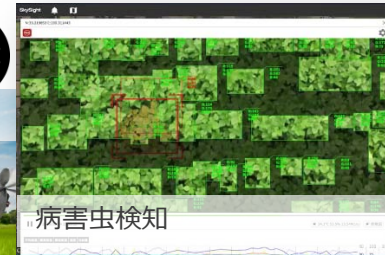
土木3Dモデリング



農業ソリューション

- ・ 農業用ドローン
- ・ 病害虫検知(画像分析)
- ・ センサーデータ分析
- ・ 果物糖度把握 (※畜産：牛温管理)

農業用ドローン



病害虫検知

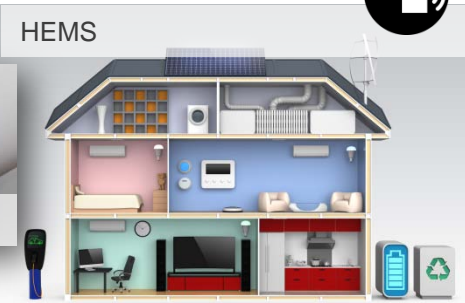
センサーデータ分析



スマートホームソリューション

- ・ 防犯カメラ
- ・ HEMS
- ・ 民泊システム

HEMS



防犯カメラ



防犯ソリューション

- ・ 防犯カメラ
- ・ センサー監視

防犯カメラ



防犯センサー



ヘルスケアソリューション

- ・ 見守り
- ・ 遠隔医療

見守り



遠隔医療



メインフレーム時代

特定の企業や組織のみが専用のハードウェアを保有する時代



BASIC時代

個人にもパソコンが行き渡ったが、プログラミングを必要とする時代

```
How many files(0-15)?  
NEC N-88 BASIC Version 2.0  
Copyright (C) 1981 by Microsoft  
56543 Bytes free  
Ok  
  
SCREEN 2:FOR I=0 TO 7:LINE(I*10,150)-(I*10+9,180),I,BF:NEXT  
Ok  
  
load " auto go to list run
```

IT社会の変遷とOS

時代とともに必要とされるOSが誕生してきた

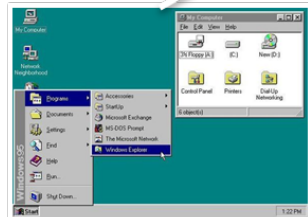


- ・メインフレーム 全盛期
- ・半導体小型化
- ・パソコン普及
- ・インターネット普及
- ・ネット高速化
- ・モバイル普及
- ・クラウド普及
- ・IoTの普及へ



DOS

UNIX



Windows

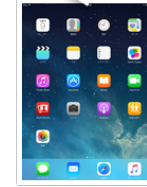
Linux



Mac OS



Android



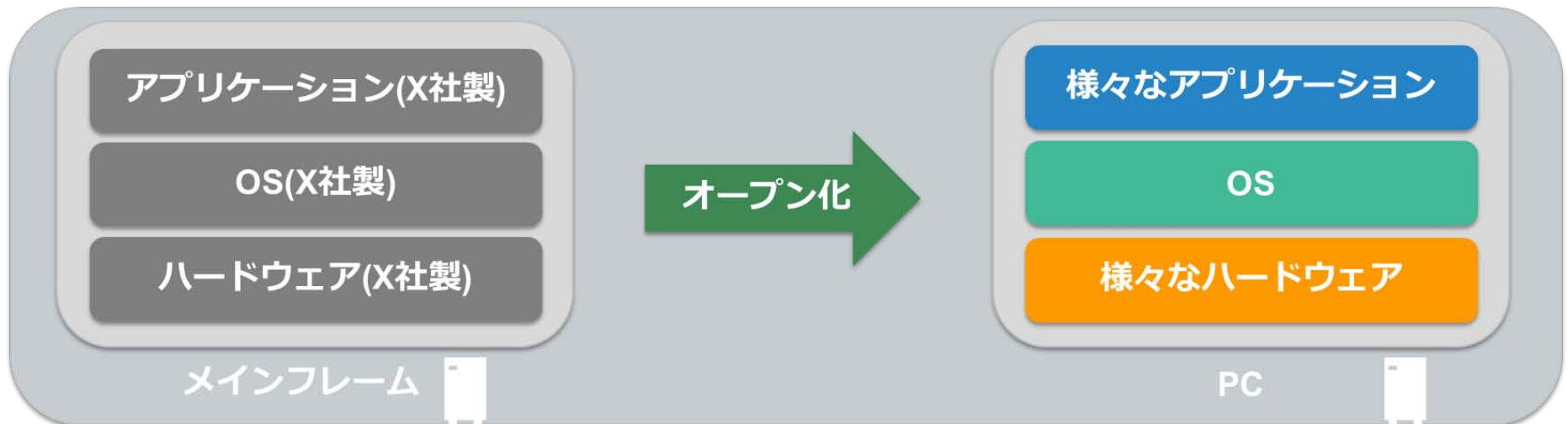
iOS



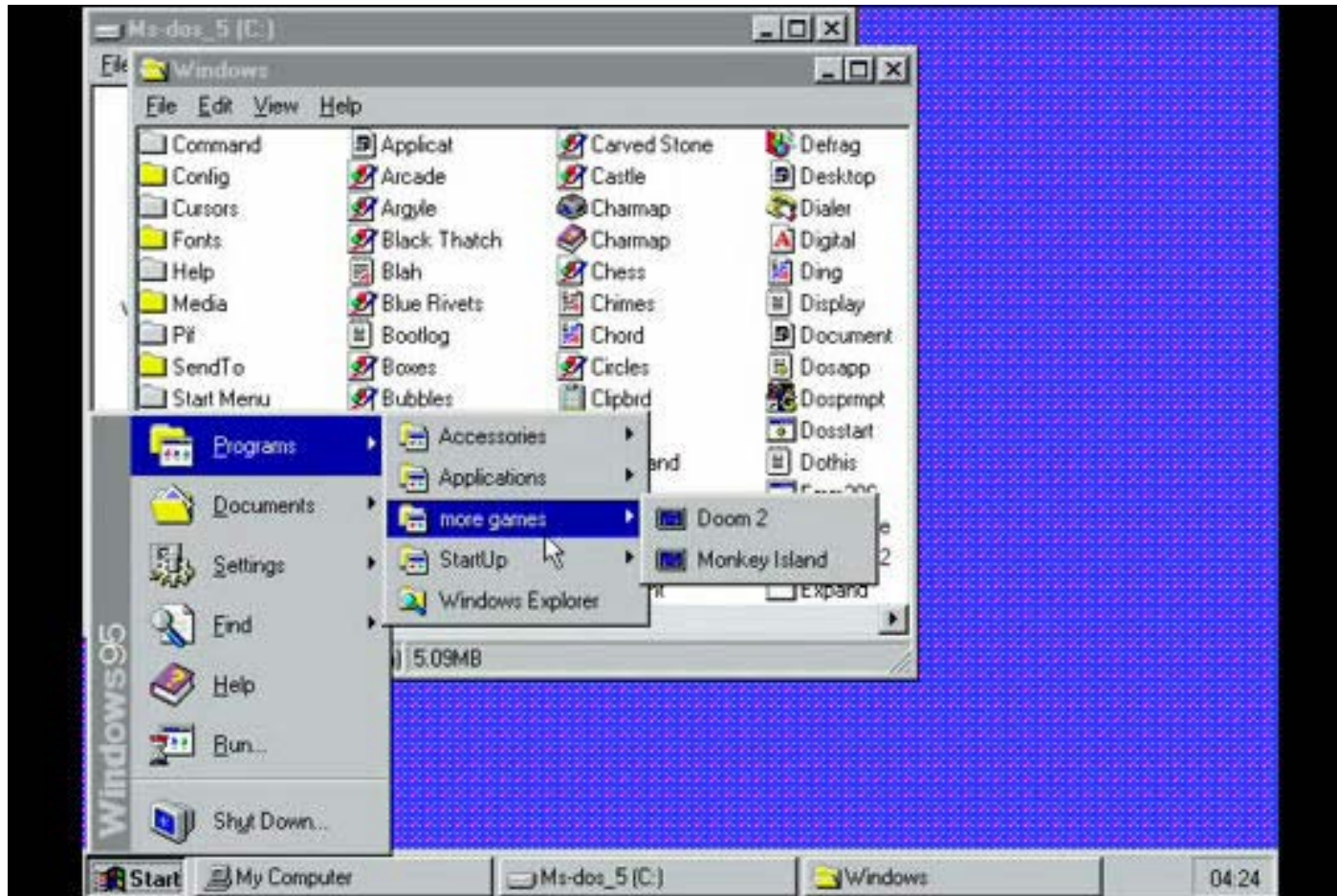
IoT時代のOS

コンピュータの歴史とオープン化

OSの登場により様々なハード、アプリケーションが
最小限の投資で使える時代に



Windowsの誕生



“作る” から“使う”

PCはWindowsの登場で

ソフトウェアを**作る事**が中心の時代から

使う事が中心の時代へと移行したことにより

爆発的な普及が始まった

Cloud IoT OS Demo

Cloud IoT OS ビジネスモデル

購入はStoreから

アプリ
オプション
・拡張機能
・ストレージ
・APIシリアルキー
ハード機器
回線

有償
(ハード)



Wearable



Network Camera
(Connected Camera)



Connected
Robots



センシング
デバイス

有償



CPU・API・Data Storage
(ハード利用)



SkySight
(専門フィルター)



Cloud Vision
(人流カウント)



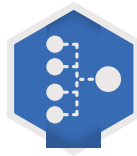
SecondSight
(オペレーターツール)



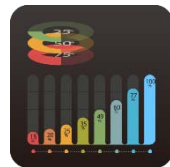
APIシリアルキー
(呼出回数、転送量の従量制)

無償

0円/月



Explorer



Insight



SkySight



Cloud Vision



Store



IDE



OPTiM CLOUD IoT OS

パートナーとのビジネス創造

パートナーの皆様と、IoTビジネスで新たなビジネスを創造していきます！

ハードウェア
メーカー

通信
事業社

クラウド
事業社

ソフトウェア
デベロッパー

SI/販売
パートナー



OPTiM CLOUD IoT OS

IT

医療

農業

教育

コスメ
(ファッション)

車
金融
不動産
観光

建設
建機
ビル

スマートホーム
住宅
メーカー

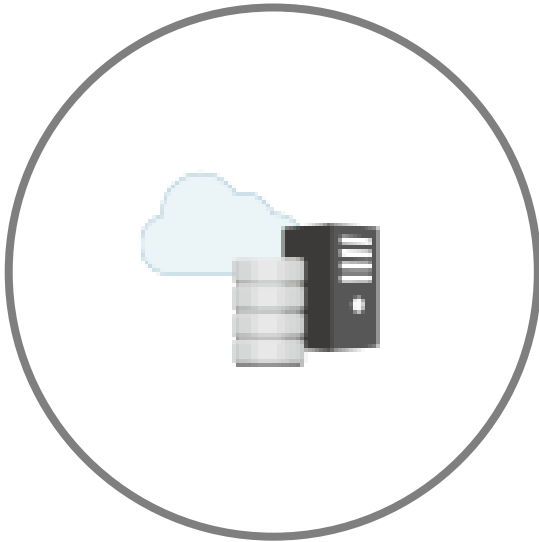
出版
鉄道
運輸

金融

...

Cloud IoT OSを活用する3つのポイント

IoTサービスを素早く小さく始めて、付加価値を生み出すスピードを上げる



① 既存のCloudサービス上で
動作可能



② IoTサービスで必須となる
機能は標準搭載



③ 画像解析、AIにより
付加価値をつくり
ARPU向上

あらゆる産業との融合を目指し

〇〇×ITの進捗

2015年度には既にあらゆる産業において、IoT/AIの新しいアプローチが始まっています

建設（コマツとの業務提携）



農業（佐賀県・佐賀大学との産学官連携協定）



コスメ（パリ開催のCosmetic360出展）

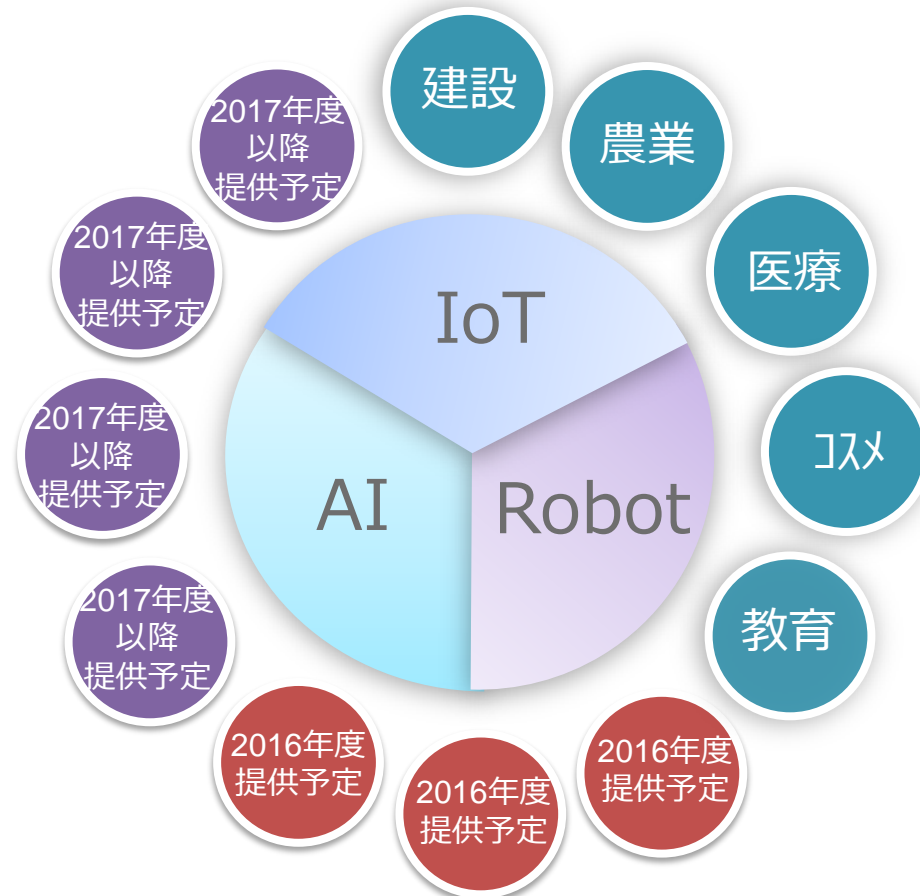


医療（MRTとの共同開発）



「〇〇×IT」による産業との融合

各業界・産業とIoT/AI/Robotを融合させる「〇〇×IT」により
ITの力で業界・産業基盤を再構築していきます



医療×ITの今後のビジョン

遠隔医療の推進（政府方針）

- 経済財政運営と改革の基本方針2015
- 情報通信機器を用いた診療（いわゆる「遠隔診療」）について

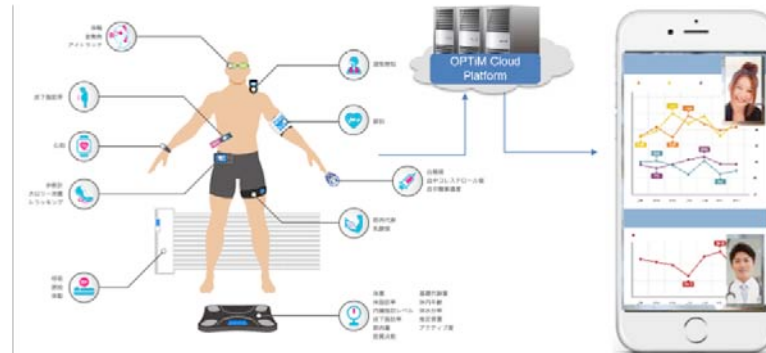


医療情報のプラットフォームを提供するMRTと国内初となる遠隔診療・健康相談サービス「ポケットドクター」の提供を開始

クラウド、IoTの活用で、時間も場所も選ばない医療へ 自宅に居ながら診察、健康診断、検査、薬の処方が受けられる



出典) 日経デジタルヘルスが提唱するソーシャルホスピタルの概念図 (イラスト: 楠本礼子)



ヘルスケア機器、ウェアラブルデバイスとの連携

メディカルIoTプラットフォームの構築

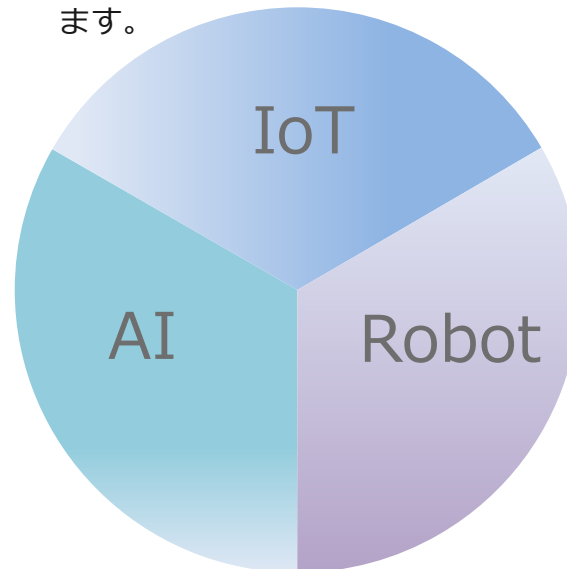
更に今後は、医療機関と連携し、「Cloud IoT OS」、「Optimal Second Sight」の2つのプラットフォームを組み合わせ、メディカルIoTプラットフォームの構築を行う予定です。メディカルAIサービス、メディカルRobotサービスなどを用いて、遠隔医療の高度化を行い、遠隔医療の推進を行なっていきます。

メディカルIoTプラットフォーム

今までインターネットに接続されてこなかった医療機器や医療データを接続することで、あらゆる医療に関連する課題を解決することを目指します。

メディカルAIサービス

検査データ、画像データをAIにより解析し、今まで専門家でしか発見することのできなかった、症状と病理の相関性を自動的に発見することを目指します。



メディカルRobotサービス

IoTやAIにより得られた知見から、Robotを活用して物理的な医療支援を行うことを目指します。

AIの研究開発例

2015年度に発表した、Cloud IoT OS上で動作するAIを用いて、様々な業界への展開を行なっています。



機械学習

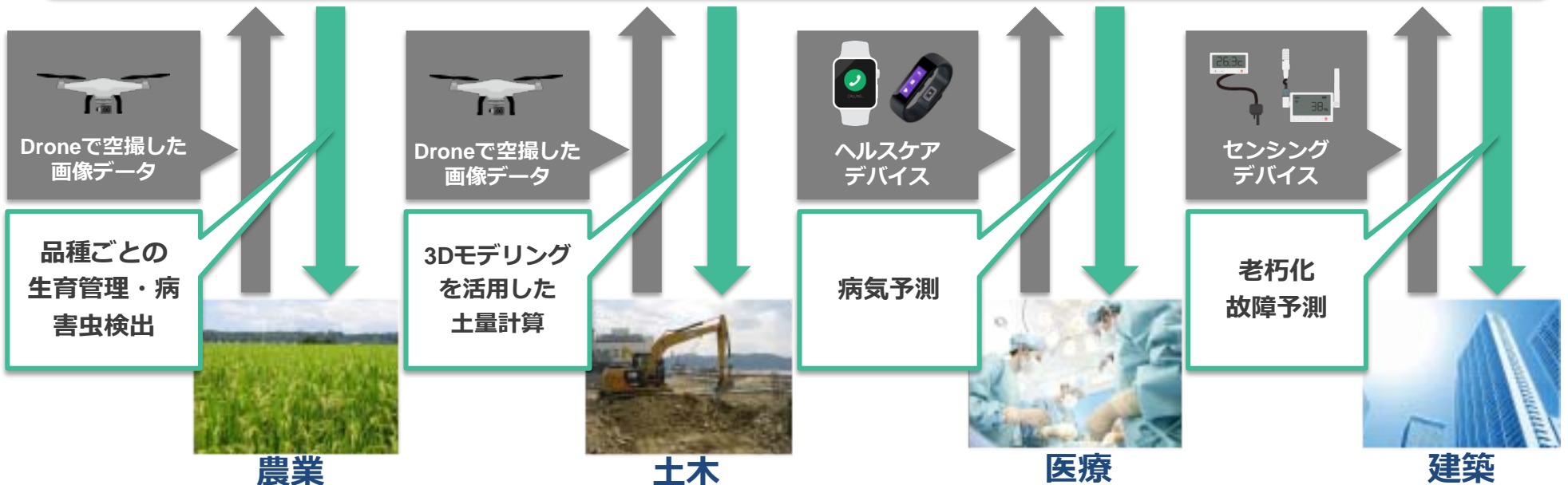
ディープ
ラーニング

画像解析

顔認識

音声解析

AI (Artificial Intelligence)



2017年3月期 ビジョン

OPTiM Cloud IoT OSで
国内デファクトスタンダード獲得を行うための
集中投資を行い
第4次産業革命において中心的な役割を果たす
企業となるための1年とします

OPTiM

www.optim.co.jp

OPTiM

Copyright © 2016 OPTiM Corp. All Rights Reserved.